|  |
| --- |
| **平成３１年度（２０１９年度）**  **社会福祉法人　いなほ福祉会**  **児童発達支援センター　通園めだか　事業計画書** |

１、事業の目的・方針・・・発達支援・家族支援・地域支援

地域の障害や発達につまずきのある児童が通所し、日常生活における基本的動作の指導、自活に必要な知識や技能の付与または集団生活への適応のための訓練を行うこと**＜発達支援＞**や通所児童の家族に対して障害受容のサポートを行うこと**＜家族支援＞**を事業の目的とする。

又身近な地域における通所支援機能として、日々通所してくる児童はもとより、通所児童以外の地域の障害児やその家族を対象とした支援や保育所をはじめとする障害児を預かる施設への援助や助言をあわせて行う（保育所等訪問支援事業）など、地域の中核的療育支援施設としての役割を果たす**＜地域支援＞**、又児童発達支援センターの必須事業である、障害児支援利用計画（相談支援）を行い全ての障害児者に必須となる計画相談作成の事業所として、障害者の計画相談事業と協力共同しながら地域の要望にこたえていく。

２、利用定員

定員　２０名　　　利用登録者　２１名（Ｈ３１年４月予定）

３、職員体制

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| **職種** | **定数** | **現員** |
| 管理者 | １名 | １名（兼務） |
| 児童発達支援管理責任者 | １名 | １名 |
| 相談支援専門員 | １名 | ２名（兼務） |
| 訪問支援員 | １名 | １名（兼務） |
| 保育士または  児童指導員 | ６名 | ４名（１名育休中）  ６名（２名兼務） |
| 指導員 |  | １名 |
| 補助職員 |  | ３名 |
| 相談員 |  | ２名 |
| 臨床心理士 |  | １名 |
| 管理栄養士 |  | １名 |
| 給食調理員 | １名 | １名 |
| 嘱託医 | １名 | ２名 |
| 送迎運転手 |  | ２名 |
| 送迎添乗員 |  | １名 |
| **合　計** | １２名 | ２６名 |

４、営業日及び営業時間

1. 営業日

　月～金曜日（年末年始・夏期休暇・春期休暇を除く）

　第１・３土曜日

1. 営業時間

　　月～金曜日　　　　９：００～１５：００

　　　（毎週火曜日の午前中は親子保育）

　　第１・第３土曜日　９：３０～１１：３０

５、今年度の重点方針

＜発達支援＞・・通所児童への支援

発達につまずきのある幼児や障害を持つ児童とその家族に対して、通園の方法をとり日常生活における療育の場を提供し、障害の固定化の予防や日常生活における基本的動作を習得し及び集団生活に適応できるよう、適切な指導や援助を行い豊かな育ちを保障します。また保護者が見通しを持った子育てが行えるよう具体的な生活の中で子育て上の困難に対する支援を行います。

＜家族支援＞・・通所児童の家族に対しての支援

親子保育の実施や懇談会、学習会を開催し、同じ悩みを持つ保護者同士のつながりをつくりながら保護者や家族の障害受容のサポートをしていきます。また適正な就学や転園について一緒に考え、見学等行いながら、子どもの立場に立った次の進路決定のサポートをしていきます。

①職員の専門性の向上と保育の見直しを行います

昨年度に引き続き三重大学准教授　吉田真理子先生に子どもの発達相談及び職員の研修にお越しいただき、発達や保育理論を系統的に学ぶ機会を設け、職員の保育の専門性を高めるとともに、集団療育を行う上での集団の在り方・子ども一人一人の発達保障をするための保育の取り組み方など、実際の保育を通してアドバイスを頂きながら、保育・療育の見直しを行います。

また職員研修など、職員の学びの場を計画的に作り、職員の専門性の向上に努めます。

　②職員会議の在り方を見直します

　　週１回の職員会議は定例化しましたが、子どもの情報共有やケース検討を行う機会が少なかったので、計画的に話し合いがもてるように、職員会議の在り方を見直します。

　　季節や行事の取り組み方などでは、マニュアル化できるところもあるので、議論が短縮できるところは短縮し、一人一人の子どもの発達について話し合う機会を多く作っていきます。

　　　第１週　情報共有・ケース検討・職員研修

　　　第２週　議題の検討

　　　第３週　グループ会議

　　　第４週　議題の検討

　と定め、情報共有・ケース検討が定例化できるようにします。

　③並行通園を開始します

　　地域の保育所や幼稚園に通っている集団になじみにくい子どもなどを対象に、平日の並行通園を実施します。

　　週１回、母子分離で９：００～１５：００通園めだかで過ごし、集団生活の力を育みます。また月１回、保護者の方には親子保育に参加していただき、集団の中での子どもの成長を見守るとともに、子どもの理解を促します。

　　並行通園を利用することで、保護者が集団での我が子を理解し、ありのままを受け止められるようになることと、子ども自身もわかって参加できる生活の中で自らの生活を選び取る力を育み、生活の主人公としての自信を育むことを目的とします。

　④主任不在の中で、グループリーダーを中心に職員集団作り、保育作りを行います

　　通園めだかは主任が不在となるので、管理者が今まで以上に現場の保育に目をむけるとともに、各グループリーダーには、子どもの育ちや保護者支援、保育を見直すところに主体者となって関わって頂けるように支援し、グループリーダーを中心とした職員集団作り、保育作りを目指します。また次期主任となる職員の人材育成に取り組みます。

　⑤居宅型児童発達支援事業の開所を模索します

　　医療的ケアを必要とする子どもの保護者の方が、自宅を訪問する形の児童発達支援を希望していますが、三重県の南の地域には現在ありません。

その子どもの計画相談を担当しますので、保護者の方の思いに寄り添いながら、必要な社会資源を一緒に考えていく役割があります。

指定基準や必要な職員体制、サービスの提供の仕方など様々なことを考えながら、居宅型児童発達支援事業の開所ができないか模索します。

＜地域支援＞・・障がい児等療育相談支援事業と相談支援・わんぱく教室

⑥３市町からの委託を受けて、療育相談支援事業を実施します

平成２９年４月より、三重県の事業である「障がい児等療育相談支援事業」の委託を受けて、地域で暮らす障がい児（者）又は発達が気になる児童並びに家族等の相談支援を行い、障がい児等の地域生活を支援するとともに、地域支援ネットワークを整備して地域資源の改善・開発等に向けた取り組みを行い、地域での療育機能の充実を図ってきましたが、平成３１年度からは３市町の委託を受けて事業の継続を行います。

地域の支援システムとして必要な事業と整理できる事業とを見極め、関係機関の方々と調整を図りながら、２０２０年４月以降、事業をどのような形で継続するかを１年かけて検討していきます。

また、自閉症・発達障がい支援センターれんげの堀口氏と役割分担をし、幼児の療育相談は通園めだかが担い、相談したい時に相談できる機関を増やします。

⑦相談支援専門員の専門性の向上

相談支援専門員の拡充の為に、非常勤職員を１名増員し２名体制で計画相談を実施します。２名体制になるにあたり、セルフプランはなくし、園児全員の計画相談を実施します。

また相談支援専門員の専門性の向上を図るため、保育の現場との兼務をして、児童の専門性を学びながら、計画相談の作成の経験を積んでいきます。

子どもの相談支援専門員としてつけてほしい技術や考え方を学んでいただくために、発達の学習会や保護者学習会に参加していただくなど、必要な研修に出ていただき、また通園全体で相談支援専門員が集まって話し合う場を定例化し議論やケース検討などを行う中で、通園としての発達観を培い、通園の相談支援専門員としての資質の向上に努めます。

６、利用者への福祉サービス

（１）日課

（月～金曜日）

9:00 　 10:00 11:15 12:45 14:00 14:15　　15:00

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |

登園　　散歩・製作　　給食　　　　午睡　　起床　　おやつ　あつまり

　　自由遊び　音楽リズム等　　　　着替え　　　着替え　　　　降園

（第１・第３土曜日）

　　　　9：30　登園　　　10：00　あつまり・活動　　　11：30　降園

（２）保育・療育支援

＜ねらい＞

子どもは１日６時間程、母親と離れ、保育者による配慮と適切な指導や援助をうけながら、生活や遊びを通して、生活のリズムや基本的な生活習慣などの確立をめざし、乳幼児期の豊かな育ちを保障します。

保護者・家族とともに、行事や学習会を通し、育ち合う保育をめざします。

＜内　容＞

1. 道具を使った遊びや活動や、また毎日の散歩や外遊び、音楽リズム、絵本の読み聞かせ手遊びなどを多くとりいれた保育・療育をおこないます。
2. 子ども自身が見通しを持ってわかって楽しめ、生活リズムをつけ、食事・排泄　　・睡眠など、基本的な生活習慣を身につける保育・療育をおこないます。
3. 就園や就学について保護者とともに考え、見学や体験入園などの取り組みを行　　　います。

（３）親子保育の実施・懇談会・学習会の開催

毎週火曜日９時から１１時３０分まで、親子保育を実施します。

年数回の保護者懇談会・年１回の家庭訪問・年１回の個別懇談を実施します。

系統だった保護者学習会を、通園くじら・通園らっこと共に開催します。

（４）その他必要な援助

園での発達相談の開催と市町村による発達相談等への資料提出と同行

個別療育への同行・個別相談への同行

（５）健康管理

年２回　嘱託医による健康診断を実施します。

年１回　嘱託医による歯科健診を実施します。

年１回　三重県立盲学校の先生による　視力検査を実施します。

（６）送迎サービス

事業実施区域内の希望者全員の完全送迎を実施します。保護者の希望を伺い、送迎利用契約等を結んだ上で、実施していきます。

送迎費については、片道１０００円・往復２０００円を頂きます。

但し、非課税所得者のご家庭については、送迎費を免除します。

（７）給食サービス

一食につき２００円（給食及びおやつも含め）となります。

但し、非課税所得者のご家庭については、一食につき１００円（給食及びおやつ含め）となります。

７、諸記録の整備

保育日誌・ケース記録・個別支援計画・健康診断記録・給食日誌・避難訓練記録

研修記録等、児童発達支援センターとして定められた必要書類の整備を行います。

８、利用者・家族のプライバシーの確保

人権擁護の立場から個人のプライバシーの保護並びに配慮を徹底します。

職員は正当な理由なく、その業務上知り得た利用者及び家族の秘密を第三者に漏らしてはならない。更に職員でなくなった後においてもこれらの秘密を保持すべき旨を、職員との雇用契約に明記するなど必要な措置を講じます。

９．緊急時の対応

利用児が怪我や発熱、その他緊急事態が生じた時には、応急処置を行い、速やかに家族に連絡するとともに、管理者に報告します。また、必要な場合には、医療機関への緊急搬送等の措置を講じます。

１０．事故発生時の対応

　　事故が発生した場合は、県・市町村及び家族等に連絡を行なうとともに必要な措置を講じ、事故状況及び事故に際して取った処置について、記録するものとします。

　　また、万一の事故に備え、損害保険に加入し、賠償すべき事故が発生した場合は、損害賠償を適切かつ速やかに行うものとします。

１１、非常災害対策（安全管理）

天災及びその他の災害は発生した場合、職員は利用者の避難等適切な措置　を講じます。また、防火責任者は、非常災害に関する具体的な計画を立て、職員に周知徹底をはかるとともに、避難経路及び協力機関等との連携方法を確認し、災害時には、避難等の指揮をとります。又非常災害に備えるため、避難、救出その他必要な訓練を定期的に行います。

・避難訓練の実施　（月に１回）

・消防設備等の点検（年に２回）

１２、虐待防止・人権擁護のための措置

利用者の人権擁護・虐待防止等に対応するため、責任者及び推進委員の配置、相談窓口の設置等苦情解決体制に整備、職員に対する研修その他の必要な措置を講じます。

１３、苦情解決のための措置

利用者家族からの苦情に迅速かつて適切に対応するため、相談窓口の設置その他の必要な措置を講ずる。

　苦情解決責任者　　　　　下口　公未佳

　　　苦情解決担当者（受付）　下平　明子

　　　第三者委員　　　　　　　紀宝町役場福祉課課長

第三者委員　　　　　　　紀宝町社会福祉協議会事務局長

１４、職員（援助者）の援助技術の向上

（１）職員会議（ケース会議・グループ会議含）の実施（週１回）

　（２）研修の実施

　　　・研修計画の策定

・各種研修会への参加

　　　・発達の学習・障害についての理解・就園／就学についての学習等

　　　・各々の職員の目標設定並びに人事考課を実施します。

１５、事務・財務管理

（１）会計処理の適正化をはかります

（２）請求事務の効率化・適正化をはかります

出欠表・記録表の実務まで職員でおこない、事務センターへ送る

（３）経費の省力化をはかります

１６、その他の業務

（１）和歌山県障害児保育運動連絡会および三重県障害児通園施設等連絡協議会へ結集し、その運動の一翼を担います

（２）地域の啓発活動（地域住民の障害への理解の促進）につとめます

（３）地域との協力につとめます

＜資料　年間行事計画＞

春：入園式／春の遠足／健康診断／家庭訪問／保護者懇談会／学校見学／家族参観

夏：５歳児宿泊保育／夏まつり／進路アンケート実施／保護者懇談会

秋：保育開放週間／運動会／個別懇談／保育所見学／保護者懇談会／健康診断

歯科健診／給食試食会

冬：クリスマス会／もちつき大会／生活発表会／お別れ遠足／保護者懇談会

卒園式・修了式